

## 不戦と平和の誓いあらたに

### 9月に協会創立60周年

#### 記念式典、文化のつどい開催

岐阜県日中友好協会は5月23日、2015年度定期総会を開き、本年度予算、事業計画などを承認、創立60周年記念事業として、9月5日に文化のつどいと記念式典を開催することを決定しました。

当協会は1955年9月20日、日中友好協会岐阜支部として誕生。日本と中国の国交は途絶え、望郷の念を抱く日本人が中国大陸において、県内にも日中戦争の傷跡が残る頃でした。翌56年から県内の中国人殉難者の遺骨送還運動に参加し、不戦と人道主



日中民間交流の促進を訴える杉山幹夫会長  
＝岐阜市、岐阜商工会議所

義に立った当協会の活動の原点となっております。日中国交正常化の10年前の1962年には岐阜市と杭州市の日中不再戦碑文交換にも深くかわり、国交正常化後は両市の友好都市をはじめ、県内の民間交流のさきがけとなってきました。中国の残留日本人孤児・婦人と家族との手紙の翻訳、帰国後の社会復帰への支援、会員による中国人留学生への奨学金支援、中国語や太極拳の普及、訪中団の派遣などを行ってきました。

今年には戦後70年。その節目に創立60周年を迎え、杉山幹夫会長は「不戦の誓いの原点に立ち返り、民間交流を深めていく」と活動方針が示し、会員拡大を訴えました。

「日中友好文化のつどい」と「記念式典」はその節目の行事であります。「文化のつどい」は長良川国際会議場で会員の株式会社インフォアーム会長辻正氏が能楽「楊貴妃」を舞い、中国琵琶の演奏も。「記念式典」は「文化のつどい」終了後、会場を隣の岐阜都ホテルに移し、各界の来賓を招いて行います。そのほか60周年記念冊子の発行、ゴルフコンペの開催、朝日大学との講演会も承認されました。また亀之内前理事長逝去に伴う理事補充が行われ、会員の大友克之朝日大学学長が選任されました。朝日大学は大友学長のリーダーシップの下、長年中国の大学と学術交流、学生や教員の派遣をしており、昨年には村山元総理岐阜講演会で協力を得ました。

#### 葛駐名古屋総領事に招待状

5月26日、杉山幹夫会長、土屋康夫理事長、辻正氏が中国駐名古屋総領事館を訪れ、葛駐名古屋総領事と会見、9月5日の「文化のつどい」と「60周年記念式典」の案内状を



葛廣彪総領事に60周年行事の案内を渡し、説明する杉山幹夫会長＝駐名古屋中国総領事館

手渡しました。

葛総領事は中日友好交流大会での習近平国家主席談話を紹介しながら、「中日友好の根本は民衆の友好である。両国の関係が困難なときは友好人士の積極的な働きが必要となり、改善に向かうときには友好人士のさらなる積極的な推進活動が必要となる。岐阜県日中友好協会にはこれまで同様、民間交流の伝統の発揚と、岐阜県と中国の民間友好交流の促進に対し多くの貢献を期待する」と語り、これに対し、杉山会長は「戦後70周年は日中両国にとって重要な節目である。戦争を経験した世代の一人として、歴史と向き合い、未来永い平和友好の実現を心から願っている。今年当協会が誕生して60年を迎える。9月の記念行事を契機として岐阜県と中国の民間交流・協力を促進するために不断の努力を払っていく」と語りました。

#### ◆日中友好文化のつどい

長良川国際会議場 9月5日(土) 14:00~

#### ◆岐阜県日中友好協会60周年記念講演会・式典

岐阜都ホテル 9月5日(土) 17:00~

# 南京城修復20周年に朝日大学生が参加

## 中国の学生と交流

岐阜県日中友好協会は、南京城壁保存修復協力事業20周年を記念した日中友好大学生訪中団に朝日大学推薦の学生2人を派遣、鈴木高啓事務局長が引率者を務めました。

大橋利紀さん(20) 法学部3年、大垣市  
井町 早野莉央さん(20) 経営学部3年、垂井町  
で、全国から選ばれた約100人の大学生に交じって中国の学生と交流を深めました。

今回は(公社)日中友好協会と中日友好協会の協議に基づいて全国各地の協会員と学生合わせて200人余の大型訪中団が編成され、5月15日、南京で開催された記念行事(両協会、中国人民対外友好協会、江蘇省人民対外友好協会主催)に参加しました。



南京城壁保存修復協力事業20周年の記念式典  
=5月15日、南京中日友好会館



中国語の歌を大合唱する日中の学生たち  
=5月19日、北京市内

生訪中団は南京、蘇州、上海、北京を訪れ、南京大学、東南大学、蘇州大学、北京外語大学、北京音楽学院の学生との交流会に臨みました。

各大学とも日本語専攻の学生たちが参加、日中両国語を交えての交流となった。大橋さん、早野さんとも初めての訪中だったが、日本のマスコミで伝えられる中国のイメージとは異なる親しみ深い若者をその目で見て、「中国の印象が変わった」と口々に感想を語ってくれました。

大学生訪中団は約半数は中国語を未修得、6割以上が初の訪中でした。しかしそこは学生。見るもの聞くもの感じるもの全てが新鮮で、柔軟な感性で受け止め、意義深い体験になったように思いました。

当協会では本年度から学生会員の入会(在学中は会費免除)を働きかけることになりました。今後このような機会を捉え、積極的に学生を派遣し、民間交流の担い手の育成に取り組む方針です。

(文、写真とも鈴木)

当日あいにくの雨のため、記念式典は南京中日友好会館で開催され、参加者は日中両国合わせて400人となりました。日中双方の代表はスピーチのなかで、歴史を正しく理解し、未来にわたって日中両国の友好を築いていくことを誓い合いました。

その後、大学の

## 日中友好協会会長に丹羽氏就任 駐中国大使の経験に期待

(公社)日中友好協会の新会長に丹羽宇一郎氏が就任しました。2010年6月から12年11月まで民間出身として初の駐中国大使を務め、加藤紘一元自民党幹事長の後任として6代目の会長となります。6月18日、東京での第6回定時総会で承認されました。総会終了後に開かれた日中友好協会創立65周年記念祝賀会の冒頭挨拶の中で、丹羽新会長は「2012年の国交正常化60周年の際には日中関係の問題によって予定されていた60以上の活動が中止となり、大変悔しい思いをした。2017年の45周年にはぜひ多くの交流活動を実現させたい」と抱負を語りました。

丹羽新会長は名古屋出身で名古屋大卒。伊藤忠商事の社長や会長を歴任、日中の経済協力を大いに進めました。それに大使としての経験が加わり、(公社)日中友好協会のリーダーとしての期待が高まります。現理事長は愛知県日中友好協会副会長の岡崎温氏。会

長・理事長ともに愛知県出身となり、隣県の当協会にとっても喜ばしいことであり、今後も日中友好協会、愛知県協会との連携を一層深めていきたいと思えます。



新会長に決まった丹羽宇一郎氏(76)。隣は岡崎温理事長=東京・日本教育会館